

早稲倉啓吾先生の「[定点観測授業ライブラリ]」の構築とそれを利用した省察」について

愛知教育大学 青山和裕

早稲倉先生は授業の動画記録をまとめる授業ビデオアーカイブを作り、院生間で共有・検討できる環境を作成している。お互いの授業を見合うことで切磋琢磨し、次第に授業が改善される様子も報告されるなど、教員の力量形成に向けて新しい形を提案してくれていると感じました。お互いの授業を参観する授業研究会を日常的に実施するのは現実的ではなく難しいが、このような取り組みを通じてお互いの授業の様子や指導方法などについて継続してフォローしていくことが可能となります。指導教員である飯島先生も動画について視聴・コメントすることで授業に居合わせることができなくても指導することができます。もちろん現場にいる方が個々の生徒の様子や教室全体の雰囲気など多くのことが分かるのは確かですが、そのような機会はたくさん授業する中のどこか1回、あるいは数回しかもてません。授業ビデオアーカイブと組み合わせることで、教員の授業力向上のための方途が広がるなど感じました。

私から提案したいこととしては、動画を見ながらみんなで協議するだけではなく、動画をシステムティックに分析してみたいです。かつてTIMSS Video Studyでもやりましたが、各国の授業動画を分析する際に、活動内容ごとに分類して時間を積算したり、どういう活動が連なってくるかを分析していました。授業ビデオアーカイブも同様の視点で分析ができると思います。例えば、導入にかけている時間の長さや、授業全体で教師が話をしている時間、生徒が問題に取り組んでいる時間や話しあっている時間などを計測してもらえば、4月当初とその後で時間配分がどのように変わっているかを分析することができますし、先生の発問の内容について変化を分析することで見えてくることもあると思います。授業動画から自動でそういった情報を拾い出すAIを開発すれば、大規模に授業比較をすることもできるようになると思います。